

構造改革特別区域計画

1 構造改革特別区域計画の作成主体の名称

香川県

2 構造改革特別区域の名称

糖質バイオクラスター特区

3 構造改革特別区域の範囲

高松市及び三木町の区域の一部（香川インテリジェントパーク、香川大学及び香川医科大学）

4 構造改革特別区域の特性

< 香川インテリジェントパークの集積 >

香川県では、官民一体となって香川インテリジェントパーク（K I P）を整備し、K I P周辺も含めて、産学官の研究機関、産業支援機関並びにインキュベーター施設の集積を進めてきた。

研究機関では、K I P内に香川大学工学部、高温高圧流体技術研究所、産業技術総合研究所四国センター、民間企業の研究所、K I P周辺では香川大学農学部、香川医科大学、産業支援機関では、新事業創出支援体制（地域プラットフォーム）の中核的支援機関である（財）かがわ産業支援財団、（株）香川産業頭脳化センター、香川知的所有権センターなど、

インキュベーター施設では、実用化にむけた産学官共同研究グループに研究スペースを提供するFROM香川（香川県科学技術研究センター）、インキュベーター工房を提供するネクスト香川（香川県新規産業創出支援センター）、研究開発用のインキュベートルームや高速通信回線が整備された事業スペース（ITスクエア）を提供する香川産業頭脳化センターなど

の集積が図られている。

県では、こうした産学官の集積効果を最大限に活用し、K I P及びその周辺を「産学官連携による研究開発・新規産業創出の拠点」にすることを基本目標とする「香川インテリジェントパークニュープラン」を平成14年12月に策定し、ソフト施策を中心として、集積した産学官の機関の真に有機的な連携を促進し、新たな産業の創出を目指している。

<大学の研究ポテンシャル、K I Pにおける産学官連携、大学発ベンチャー>

香川大学及び香川医科大学では、世界的な水準にある希少糖という単糖の研究が産学官連携により進められており、希少糖の大量生産に成功するほか、希少糖の様々な生理活性の発見などの成果が挙げられている。

この希少糖研究が、文部科学省の知的クラスター創成事業に採択され、新しい糖生命科学の創出と医薬品をはじめとする幅広い分野での希少糖を活用した糖質バイオ産業の創出を目指して、産学官一丸となって取り組んでいる。

この他、大学発ベンチャーを起こして事業化への動きがあるガレクチンに関連した複合糖質研究やグリコサミノグリカン研究などを含め、単糖、糖蛋白質、糖鎖、多糖質といった糖質バイオ分野で優れた研究開発が行われており、クラスター戦略の核となり得る研究開発力のコアが形成されつつある。

希少糖の産学官共同研究グループや大学発ベンチャーを中心とする研究グループは、FROM香川やネクスト香川に入居しており、K I Pが糖質バイオ分野の研究開発と事業化につながる実用化研究・技術開発の拠点として機能しており、糖質バイオクラスター形成の素地ができつつある。

糖質バイオ分野以外でも、IT分野やロボット工学分野の大学発ベンチャーが起こっており、大学の研究成果を大学発ベンチャー等を通じて社会還元する機運が高まっている。

<大学の統合、今後の社会貢献方針>

香川大学及び香川医科大学は、平成15年10月に統合する。統合と同時に、希少糖研究センター及び総合生命科学実験センターが省令施設化され、希少糖をはじめとする糖質バイオ分野の研究開発を推進する組織体制が強化される。

さらに、平成16年4月の独立行政法人化を踏まえて、県との連携の一環として糖質バイオクラスター戦略を推進し、社会貢献を果たしていく方針である。

また、香川大学では、平成15年4月から、経済学部において日本政策投資銀行との連携により「ベンチャー育成講座」を新設するとともに、工学部において企業の寄附講座により「ベンチャービジネス創生工学講座」を新設するなど、全学で大学発ベンチャーの創出を支援することとしている。

5 構造改革特別区域計画の意義

香川県では、地域経済の活性化を図るため、今後の産業振興政策の柱として、「地域の大学等の頭脳を積極的に活用した産学官連携による産業化の推進」に、香川大学及び香川医科大学等との連携により取り組む。

特に、本構造改革特別区域の特性である糖質バイオ分野の優れた研究開発力を

核として、これまでの産学官の集積を活用し、国際的競争力のある技術革新を創出する集積拠点である「糖質バイオクラスター」の形成を本区域において推進する。

香川県並びに香川大学及び香川医科大学では、「糖質バイオクラスター」の形成を目指して、それぞれの創意工夫と緊密な連携のもと独自の取組みを進めている。

特に、希少糖研究では、平成13年4月、香川大学に本部を置く国際希少糖学会が設立されており、平成14年5月に第1回国際シンポジウムが香川で開催されるなど、香川が希少糖研究の国際的中枢拠点となっている。

本区域の特性であるこうした研究開発力の国際的優位性、中枢拠点性をさらに高めるため、外国人研究者との交流などにより、地方発の国際的研究ネットワークを一層充実させるとともに、そこから生まれる研究成果をより効率的に新規産業の創出につなげるシステムを構築するためには、関連の規制の特例措置を導入することが必要不可欠であるので、特区計画の認定を申請するものである。

6 構造改革特別区域計画の目標

「糖質バイオクラスター」を形成するため、大学から連鎖的に質の高い新技術シーズが創出され、そのシーズを速やかに事業化につなげるための大学発ベンチャーの創出や既存企業との連係が容易に行えるシステムを構築する。

質の高い新技術シーズ創出のために、県では、大学に寄附講座を設置し、新技術シーズ創出にシナジー効果が期待できる分野の優れた研究者を招致する。あわせて、大学主導で企業からの寄附講座設置のための働きかけを行い、優れた研究者が集まる研究開発力のコアづくりを推進する。

また、特定事業を活用して、国外からも幅広く優れた研究者の招致できる環境を整備する。

創出された新技術シーズの実用化研究・技術開発を行うステージとして大学発ベンチャーを位置付け、特定事業を活用して、大学教員等が大学発ベンチャーへ参加しやすい環境を整備する。

これらに県が実施する「糖質バイオクラスター形成事業」や大学の独自の取組みをあわせて、大学を中心として糖質バイオ分野の研究開発の国際的中枢拠点を形成し、そこから連鎖的に質の高い新技術シーズが創出され、そのシーズを速やかに事業化につなげるシステムモデルを構築して、全国的な構造改革に貢献するとともに、糖質バイオ分野以外の分野も含め、優れた研究人材や経営人材、情報、資金などが集まり、そこから新たなビジネスが創出される活力のある地域経済環境の実現を目指す。

7 構造改革特別区域計画の実施が構造改革特別区域に及ぼす経済的社会的効果

計画に定める特定事業のほか、県が実施する「糖質バイオクラスター形成事業」などの関連事業を実施することにより、新技術シーズの創出とその事業化の促進が経済的社会的効果として期待される。この効果の具体的指標及びその数値目標を次のとおり掲げ、事業を推進する。

希少糖研究などの分野で、外国から香川の研究の高度化に資する優れた研究者を受け入れることにより、質の高い研究開発が加速され、特に、有用な特許出願の増加につながるものと考えている。

大学教員等が大学発ベンチャーへ参加しやすい環境を整備することにより、直接的にベンチャー設立件数の増加につなげていきたいと考えている。

指 標 名	14年度実績 (現状)	15年度から 5年間の目標
競争的研究開発資金獲得件数	6	19
特許出願件数	12	68
プロジェクトへの参画企業数	6	11
新技術、新製品開発件数	1	21
ベンチャー設立件数	2	6

8 特定事業の名称

202 国立大学教員等の勤務時間内研究成果活用兼業事業

501、502、503 外国人研究者受入れ促進事業

504 特定事業等に係る外国人の入国・在留諸申請優先処理事業

- 9 構造改革特別地域において実施し又はその実施を促進しようとする特定事業に関連する事業その他の構造改革特別区域計画の実施に関し地方公共団体が必要と認める事項

糖質バイオクラスター形成事業（実施主体：香川県、開始の時期：平成15年度～）

- ・ 世界的な水準にある希少糖研究をはじめとする糖質バイオ分野の優れた研究成果を生かして新規産業を創出するため、糖質バイオ新技術シーズ創出支援プログラムと糖質バイオ関連産業創出支援プログラムを連携させて、新技術シーズを創出し、これを事業化につなげる支援を行う。

糖質バイオ新技術シーズ創出支援プログラム

クラスター形成の核となる質の高い新技術シーズを連鎖的に創出する研究開発支援システムを構築するため、県内の優れた研究者（グループ）を支援するとともに、「構造改革特区推進のためプログラム」別表2において、規制改革が図られた「地方公共団体から国等に対する寄付金等の支出制限の緩和（平成14年11月1日施行）」を活用して、香川大学又は香川医科大学に寄附講座を設置し、その教官として県外から優れた研究者を招致し、糖質バイオ分野の研究開発力の強化を図る。

糖質バイオ関連産業創出支援プログラム

大学等で創出された糖質バイオ分野の新技術シーズを早期事業化につなげるため、新技術シーズを生かした県内企業の新技術・新製品開発の支援や、県産業技術センターによる希少糖関連の実用化レベルの技術開発及び県内企業への技術移転や新商品製造の指導・育成などの支援プログラムを実施する。

高松地域知的クラスター創成事業（文部科学省、中核的实施機関：財団法人かがわ産業支援財団、開始の時期：平成14年度～）

- ・ 「希少糖（生理活性単糖）を核とした糖質バイオクラスター構想」が全国10クラスターの一つとして採択され、平成14年度から5年間事業実施。

< 概要 >

- ・ 自然界に大量に存在する天然型単糖を希少糖に変換する新規酵素の発見から炭素数6の全ての単糖と生成酵素の関連を構造化した「Izumoring」が生まれた。「Izumoring」により安価なD-グルコースやD-フラクトースなどからの希少糖大量生産技術を確立する。そして、希少糖の持つ物理化学的な基本性質や生理活性等を解明する研究開発を展開し、希少糖を中心とした糖生命科学の創成と、医薬品、機能性食品、化粧品などへの実用化による糖質バイオ産業の創出を目指す。

< 参加研究機関 >

産 ... 株式会社伏見製薬所、帝國製薬株式会社、株式会社四国総合研究所、隆祥産業株式会社、株式会社林原生物化学研究所、オルガノ株式会社

学 ... 香川大学、香川医科大学

官 ... 独立行政法人産業技術総合研究所四国センター、独立行政法人農業技術研究機構近畿中国四国農業研究センター、香川県産業技術センター、香川県農業試験場、香川県森林センター、高温高压流体技術研究所

別紙

1 特定事業の名称

202 国立大学教員等の勤務時間内研究成果活用兼業事業

2 当該規制の特例措置の適用を受けようとする者

香川大学、香川医科大学

3 当該規制の特例措置の適用の開始の日

計画認定後速やかに

4 特定事業の内容

大学で創出された新技術シーズを事業化につなげるための実用化研究・技術開発は、本来、大学教員が片手間にできるものではなく、人材、資金を投入して一定期間集中して取り組む必要がある。

この実用化研究・技術開発を行うステージとして大学発ベンチャーを位置付け、大学発ベンチャーに大学教員が参加しやすくするため、当該特定事業を実施する。

香川大学及び香川医科大学は、特別区域内に所在する（両大学の敷地と香川インテリジェントパークが特別区域の範囲）

香川医科大学医学部では、平島光臣教授、西望助手らが、ガレクチンと関連した複合糖質研究によるガン診断薬・治療薬の開発を行うベンチャー「(株)ガルフーマ」を平成12年11月に設立。

また、香川大学工学部では、垂水浩幸教授が、移動通信における新情報システムの開発を行うベンチャー「(株)スペースタグ」を平成13年11月に設立。

現在、これらの教員は、勤務時間外兼業承認を受けて、ベンチャーにおける研究開発を行っている。

また、関連事業等により、質の高い新技術シーズの創出を加速し、これを事業化するために大学発ベンチャーを積極的に創出する。

こうして創出される大学発ベンチャーに参加する大学教員を当該特定事業の対象とする。

5 当該規制の特例措置の内容

現在、バイオ分野の創薬など医療応用に関しては、世界中で激しい競争が展開されており、一刻も早く研究成果を出し、特許による権利化を図り、実用化開発を行う必要がある。

また、ベンチャーの経営を軌道にのせるため、早く市場に出せる製品を開発することが急務である。こうしたことから勤務時間内兼業によらなければ研究成果活用企業の事業の実施に支障が生じる場合が多く発生すると認められる。

一方、公務の運営との関係では、大学において大学発ベンチャー創出を支援する観点から所要の調整を図り、勤務時間内兼業を行ったとしても公務の運営に支障が生じないよう対応する。

当該特例措置により、割り振られた勤務時間を割こうとする場合には、日時を特定して、委任を受けた香川大学長又は香川医科大学長の承認を受けるものとす

別紙

1 特定事業の名称

501、502、503 外国人研究者受入れ促進事業

2 当該規制の特例措置の適用を受けようとする者

香川大学、香川医科大学、財団法人かがわ産業支援財団

3 当該規制の特例措置の適用の開始の日

計画認定後速やかに

4 特定事業の内容

「糖質バイオクラスター」形成の核となる質の高い新技術シーズ創出のために、優れた研究者を招致し、研究開発力のコアづくりを推進する。国内だけでなく、外国からも幅広く優れた研究者を招致するため、当該特定事業を活用して、研究活動の成果を活用してベンチャー等による新事業創出に速やかに移行できるなど、外国人研究者にとって魅力ある活動環境を整備する。

香川大学及び香川医科大学では、外国人研究者も含めて糖質バイオ分野の優れた研究者を招致し、研究開発力のコアづくりを推進することとしている。

特に、希少糖研究では、香川大学に国際希少糖学会の本部が設置されており、同学会等を通じて外国からの研究者の交流や共同研究の申し出があるなど、香川がまさに希少糖研究の国際的中枢拠点として機能している。

こうした申し出の中には、香川の希少糖研究の高度化に資するものがあり、現に、香川大学では、平成15年6月を目途に、希少糖研究センターに配置する外国人研究者を、希少糖生産の産業化に資するバイオリクター関連技術開発で優れた研究者がいるフィンランドから受け入れることで調整を進めている。

希少糖は、試薬としても非常に高価であり、実験にも安易に使用できなかったため研究がほとんど進んでいなかったが、そういった状況の中でも外国では関連の優れた研究者がおり、このような外国人研究者の受け入れによる研究交流を推進することが、香川の希少糖研究の一層の高度化及び国際的中枢拠点性のさらなる向上に資することになる。

また、財団法人かがわ産業支援財団は、現在、知的クラスター創成事業（希少糖プロジェクト）の研究員又は研究補助員として、「教授」又は「研究」の在留資

格で在留している外国人研究者を4名受け入れている。

希少糖プロジェクトの進捗により、研究成果を実用化するためのベンチャー創出が見込まれ、当該外国人研究者が研究成果を利用して行う事業を自ら経営する活動を行う可能性があるため、特区法第15条第5項による特例措置の適用対象者である。

さらに、同財団では、知的クラスター創成事業の進捗にあわせて、今後も外国人研究者を受け入れる予定である。

外国人研究者受け入れ機関として、次の機関を特定する。

香川大学

< 所在 >

本 部 高松市幸町1 - 1

農学部 木田郡三木町池戸2393

工学部 高松市林町2217 - 20 香川インテリジェントパーク内

< 概要 >

- ・ 「社会に開かれた大学」を目指して、「香川大学アクションプラン」のもとに、教育研究の活性化・高度化、地域との連携強化、国際交流の推進、教育研究支援体制の整備に取り組んでいる。

特に、希少糖研究センターや国際環境法遵守調査研究センターを設置するなど、特色ある研究の育成に務め、国際的研究拠点づくりに取り組んでおり、平成13年4月に同大学に本部を置く「国際希少糖学会」が設立されている。

平成15年10月に香川医科大学と統合し、医学系と工学系や農学系分野との学際的研究や人文社会系分野を加えた総合的研究を推進する。

香川医科大学

< 所在 >

木田郡三木町池戸1750 - 1

< 概要 >

- ・ 「地域住民の保健・医療・福祉の質の向上に資するための連携・協力」、「新技術・新産業の創出を目指すべく産業界や行政との連携・協力」を基本理念として、基礎医学・社会医学・臨床医学間の積極的な共同研究の推進、新しい研究分野の導入、高度かつ専門的な医療研究の推進、他分野との共同研究や産学官共同研究の推進などを展開しながら、その成果を地域・社会に還元していく活動を展開している。

平成14年9月に希少糖応用研究センターを開所し、希少糖の応用研究を推

進している。

財団法人かがわ産業支援財団

< 所在 >

高松市林町 2 2 1 7 - 1 6 香川インテリジェントパーク内

< 概要 >

- ・ 企業の創造的な事業活動や経営革新などに対する総合的な支援と科学技術の振興を積極的・効率的に推進するとともに、産学官の多くの試験研究機関や産業支援機関が集積している香川インテリジェントパークの特性を生かして他の機関と連携をとりながら、産業界や大学などのニーズにこたえた幅広い活動を展開している。
- ・ 新事業創出支援体制（地域プラットフォーム）の中核的支援機関であるとともに、知的クラスター創成事業の中核的实施機関である。
- ・ 財団は、FROM香川及びネクスト香川の運営を行うとともに、同施設への研究者の派遣を行う。

糖質バイオ分野の研究のための中核となる施設として、香川大学及び香川医科大学の施設、香川インテリジェントパーク内に所在するFROM香川、ネクスト香川を特定する。

香川大学の施設

< 所在 >

上記のとおり

< 概要 >

- ・ 工学部、農学部の研究施設とともに、学内共同研究施設である「希少糖研究センター」、「遺伝子実験施設」、「地域開発共同研究センター」を研究のための中核となる施設として特定する。
- ・ 希少糖研究センターは、農学部内に所在し、希少糖に関する独自の研究を発展させるとともに、外部機関との共同研究を推進するため、平成13年10月に設置された。平成15年10月に香川大学と香川医科大学の統合に併せて省令施設化される予定である。
- ・ 遺伝子実験施設は、農学部内に所在し、香川大学における組み換え遺伝子実験の高度化、増大する研究者数に対応した基盤的設備充実に対応するため、香川医科大学との共同利用施設として、平成11年4月に設置された。
- ・ 地域開発共同研究センターは、工学部内に所在し、大学と地域企業等との共同研究を推進するため、平成12年4月に設置された。共同研究のスペースや研究機器を提供するための施設が平成15年4月に供用開始される。

香川医科大学の施設

< 所在 >

上記のとおり

< 概要 >

- ・ 医学部の研究施設とともに、学内共同研究施設である「実験実習機器センター」、「動物実験施設」、「放射性同位元素実験室」を研究のための中核となる施設として特定する。
- ・ 実験実習機器センターは、研究の効率化及び実験実習の充実を図るため、共同利用の設備機器を備えた施設で、昭和63年5月に設置された。
- ・ 動物実験施設は、医学に関する動物実験の飼育管理、系統維持、開発、実験研究等を行う共同利用施設で、平成6年5月に設置された。
- ・ 放射性同位元素実験室は、放射性同位元素による実験研究を行う共同利用施設で、昭和58年5月に設置された。
- ・ 平成15年10月に香川大学と香川医科大学の統合に併せて、上記3施設と香川大学の遺伝子実験施設を総合生命科学実験センターとして改組、省令施設化される予定である。

FROM香川（香川県科学技術研究センター）

< 所在 >

高松市林町2217-16 香川インテリジェントパーク内

< 概要 >

- ・ 新規産業の創出や県内企業の技術の高度化を図るため、産学官の連携による先端技術産業分野の研究開発を行うための中核施設であり、産学官共同研究グループが研究開発に必要な施設・設備を一定期間提供する。

ネクスト香川（香川県新規産業創出支援センター）

< 所在 >

高松市林町2217-44 香川インテリジェントパーク内

< 概要 >

- ・ 研究開発型企業の育成や新規産業の創出を図るため、新技術や新商品の開発を目指す企業等に研究、試作等を行うインキュベート工房を提供するとともに、

E M C 総合試験施設（大型電波暗室等）を一体的に整備し、県内企業等の技術の高度化や新分野進出を支援する。

なお、研究のための中核となる施設として特定する施設を表にまとめると、次のとおりである。

香川大学	工学部・農学部の研究施設
	希少糖研究センター 1
	遺伝子実験施設 2
	地域開発共同研究センター
香川医科大学	医学部の研究施設
	実験実習機器センター 3
	動物実験施設 4
	放射性同位元素実験室 5
財団法人 かがわ産業支援財団	F R O M 香川（香川県科学技術研究センター）
	ネクスト香川（香川県新規産業創出支援センター）

1 平成15年10月に省令施設化

2～5 平成15年10月に総合生命科学実験センターとして改組、省令施設化

5 当該規制の特例措置の内容

<特区法第15条第1項第1号要件該当性>

当該特区内に、糖質バイオ分野に関する研究のための活動の中核となる施設として、香川大学農学部及び香川医科大学が所在する。

周辺の関連研究施設として、K I P 内に F R O M 香川とネクスト香川がある。

F R O M 香川には、香川大学希少糖研究センター長の何森 健教授を中心とする希少糖生産研究グループ、香川医科大学希少糖応用研究センター長の徳田雅明教授を中心とする希少糖応用開発研究グループ、(株)ガルファーマを中心とするガレクチン研究開発グループ、ベンチャー企業(有)シーバイオンを起こした香川大学奥谷康一名誉教授を中心とするグリコサミノグリカン研究開発グループが入居して、研究開発に取り組んでいる。

また、ネクスト香川にも、(株)ガルファーマが入居して、実用化研究・技術開発

を行っており、この二つの施設は、糖質バイオ分野の研究開発と事業化につながる実用化研究・技術開発の拠点となる施設である。

このほか、K I P内にある産業技術総合研究所四国センターは、知的クラスター創成事業に参加しているとともに、ナノ計測技術、一分子計測及びナノ微細加工技術を生かして次世代バイオナノデバイスを開発し、バイオ分子の情報計測技術分野の基盤技術の確立を目指す「単一分子生体ナノ計測研究ラボ」を開設するなど、バイオ分野の高い研究ポテンシャルを有しており、糖質バイオ分野での産業クラスター計画と知的クラスター創成事業との連携に取り組んでいる研究機関である。

また、希少糖の抽出と分析法の確立に関して知的クラスター創成事業に参加している高温高压流体技術研究所や香川大学工学部なども、生体における生理機能の解明に不可欠なアッセイシステムの開発等の分野で糖質バイオ分野の研究と密接に関連する研究機関である。

以上のように、当該特区内には、研究のための活動の中核となる施設の周辺に糖質バイオ分野に関する研究と関連する研究を行う施設が既に相当程度集積しており、当該要件に該当するものと判断する。

< 特区法第15条第1項第2号要件該当性 >

当該特区計画では、大学等で創出された新技術シーズの実用化研究・技術開発を行うステージとして大学発ベンチャーを位置付け、大学発ベンチャーで実用化研究・技術開発を集中的に行うことにより、事業化につなげることを目指している。

知的クラスター創成事業（希少糖プロジェクト）に参加している外国人研究者等の研究により新技術シーズが創出された場合、当該外国人研究者を含む人材と資金を大学発ベンチャーに集め、一気に実用化研究・技術開発を行うことで、研究を効率的かつ効果的に推進できる。これは、希少糖プロジェクト以外の研究に関わる外国人研究者についても同様である。

また、このように大学発ベンチャーを創出することは、関連する産業の発展に直接寄与するものであり、これにより当該特区計画の経済的社会的効果の数値目標が実現されると、地域の活性化に資する相当程度の産業の発展が見込まれると判断する。

以上のように、本特区計画において、糖質バイオ分野の研究を行う外国人研究者が研究の成果を利用して行う事業を自ら経営する活動を行うことは、研究の効率的推進に資するとともに、関連する産業の発展が相当程度見込まれるものであり、当該要件に該当するものと判断する。

別紙

1 特定事業の名称

504 特定事業等に係る外国人の入国・在留諸申請優先処理事業

2 当該規制の特例措置の適用を受けようとする者

香川大学、香川医科大学、財団法人かがわ産業支援財団

3 当該規制の特例措置の適用の開始の日

計画認定後速やかに

4 特定事業の内容

当該特定事業は、「501、502、503 外国人研究者受入れ促進事業」とあわせて実施する。

外国人研究者受入れ促進事業により、研究活動の成果を活用してベンチャー等による新事業創出に速やかに移行できるなど、外国人研究者にとって魅力ある活動環境を整備して、国外からも幅広く優れた研究者の招致し、「糖質バイオクラスター」形成の核となる質の高い新技術シーズ創出のための研究開発力のコアづくりを推進することとしているが、当該特定事業をあわせて実施することにより、さらに外国人研究者の受入れ及び在留しやすい環境を整備し、国外からの高度人材の流入を促進する。

外国人研究者受入れ機関及び糖質バイオ分野の研究のための中核となる施設を次のとおり特定する。

香川大学

- ・ 「社会に開かれた大学」を目指して、「香川大学アクションプラン」のもとに、教育研究の活性化・高度化、地域との連携強化、国際交流の推進、教育研究支援体制の整備に取り組んでいる。

特に、希少糖研究センターや国際環境法遵守調査研究センターを設置するなど、特色ある研究の育成に務め、国際的研究拠点づくりに取り組んでおり、平成13年4月に同大学に本部を置く「国際希少糖学会」が設立されている。

平成15年10月に香川医科大学と統合し、医学系と工学系や農学系分野との学際的研究や人文社会系分野を加えた総合的研究を推進する。

<活動する施設>

- ・ 工学部、農学部の研究施設とともに、学内共同研究施設である「希少糖研究センター」,「遺伝子実験施設」,「地域開発共同研究センター」を研究のための中核となる施設として特定する。
- ・ 希少糖研究センターは、農学部内に所在し、希少糖に関する独自の研究を発展させるとともに、外部機関との共同研究を推進するため、平成13年10月に設置された。平成15年10月に香川大学と香川医科大学の統合に併せて省令施設化される予定である。
- ・ 遺伝子実験施設は、農学部内に所在し、香川大学における組み換え遺伝子実験の高度化、増大する研究者数に対応した基盤的設備充実に対応するため、香川医科大学との共同利用施設として、平成11年4月に設置された。
- ・ 地域開発共同研究センターは、工学部内に所在し、大学と地域企業等との共同研究を推進するため、平成12年4月に設置された。共同研究のスペースや研究機器を提供するための施設が平成15年4月に供用開始される。

香川医科大学

- ・ 「地域住民の保健・医療・福祉の質の向上に資するための連携・協力」,「新技術・新産業の創出を目指すべく産業界や行政との連携・協力」を基本理念として、基礎医学・社会医学・臨床医学間の積極的な共同研究の推進、新しい研究分野の導入、高度かつ専門的な医療研究の推進、他分野との共同研究や産学官共同研究の推進などを展開しながら、その成果を地域・社会に還元していく活動を展開している。平成14年9月に希少糖応用研究センターを開所し、希少糖の応用研究を推進している。

<活動する施設>

- ・ 医学部の研究施設とともに、学内共同研究施設である「実験実習機器センター」,「動物実験施設」,「放射性同位元素実験室」を研究のための中核となる施設として特定する。
- ・ 実験実習機器センターは、研究の効率化及び実験実習の充実を図るため、共同利用の設備機器を備えた施設で、昭和63年5月に設置された。
- ・ 動物実験施設は、医学に関する動物実験の飼育管理、系統維持、開発、実験研究等を行う共同利用施設で、平成6年5月に設置された。
- ・ 放射性同位元素実験室は、放射性同位元素による実験研究を行う共同利用施設で、昭和58年5月に設置された。
- ・ 平成15年10月に香川大学と香川医科大学の統合に併せて、上記3施設と香川大学の遺伝子実験施設を総合生命科学実験センターとして改組、省令施設化される予定である。

財団法人かがわ産業支援財団

- ・ 企業の創造的な事業活動や経営革新などに対する総合的な支援と科学技術の振興を積極的・効率的に推進するとともに、産学官の多くの試験研究機関や産業支援機関が集積している香川インテリジェントパークの特性を生かして他の機関と連携をとりながら、産業界や大学などのニーズにこたえた幅広い活動を展開している。
- ・ 新事業創出支援体制（地域プラットフォーム）の中核的支援機関であるとともに、知的クラスター創成事業の中核的実施機関である。

FROM香川（香川県科学技術研究センター）

- ・ 新規産業の創出や県内企業の技術の高度化を図るため、産学官の連携による先端技術産業分野の研究開発を行うための中核施設であり、産学官共同研究グループが研究開発に必要な施設・設備を一定期間提供する。

ネクスト香川（香川県新規産業創出支援センター）

- ・ 研究開発型企業の育成や新規産業の創出を図るため、新技術や新商品の開発を目指す企業等に研究、試作等を行うインキュベーション工房を提供するとともに、EMC総合試験施設（大型電波暗室等）を一体的に整備し、県内企業等の技術の高度化や新分野進出を支援する。

外国人の活動の内容は、特別区域内で行われる糖質バイオ分野に関する研究を行う業務に従事する活動及びその研究の成果を利用して行う事業を自ら経営する活動である。（当該外国人の配偶者及び子としての活動を含む。）

5 当該規制の特例措置の内容

現在、財団法人かがわ産業支援財団で、知的クラスター創成事業（希少糖プロジェクト）の研究員又は研究補助員として受け入れている、「教授」又は「研究」の在留資格の外国人研究者を4名は、特区法第15条第5項による特例措置の適用対象者である。

また、香川大学では、平成15年度の早い時期に、希少糖研究センターに配置する外国人研究者を受け入れることで調整を進めている。

今後も、香川大学、香川医科大学、同財団で外国人研究者を受け入れる予定である。